

(2)は「蘇民将来」呪符木簡であるが、(3)についてもその可能性がある。「蘇民将来公」の木簡は兵庫県下では森北町遺跡『木簡研究』

一二)に出土例がある。

(4)は片面の左行の墨が良く残る。隸書風の書体で文字自体は鮮明であるが、意味は不明である。

以上八点の木簡以外に、墨書のない木簡状木製品一点(長さ一五六mm幅三八mm厚さ六mm、○三九型式)が出土している。

これら九点は約一五m四方の範囲内から出土した。立地的には小野川へ向かって南向きに開く谷の肩部からの出土である。木簡は小野川上流から漂着したのではなく、谷の上部即ち調査地点の北もしくは北西の、恐らく至近の場所から流れてきたものと推測される。紹説については奈良国立文化財研究所の綾村宏氏・館野和己氏・寺崎保広氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』一四(一九九四年)

(西口圭介)

中国出土簡牘的保護研究

中国出土木・竹簡の保存科学的研究(抄訳)

胡繼高
訳・佐川正敏

木箱と文書

所謂『長屋王家木簡』の再検討

有韻尾字による固有名詞の表記

小池伸彦
大山誠一
犬飼 隆

彙報

頒価 三八〇〇円 丁五〇〇円

卷頭言

木簡研究第一号

狩野 久

一九八八年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条二坊十一・十四坪坪境小路
跡 平城京左京二条四坊二坪 東大寺大仏殿廻廊西地区 藤
原宮跡 藤原京跡 長岡宮・京跡 長岡京跡 嵐嶽院跡(史
跡大覚寺御所跡) 大坂城跡 東郷遺跡 吉田南遺跡 小犬
丸遺跡 姫路城跡(武家屋敷跡) 姫路城跡(東部中濠) 玉
手遺跡 褐狹遺跡 山の神遺跡 池ヶ谷遺跡 澄名遺跡 居
村B遺跡 今小路西遺跡(福祉センター用地) 中里遺跡
中江田本郷遺跡 高溝遺跡 狐塚遺跡 仙台城二の丸跡 熊
野田遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 三小牛ハバ遺跡 能登国分寺
跡 発久遺跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡(GD01地点)
糸屋町遺跡 下川津遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一一)

出雲国序跡